ぱおの活動で学んだこと

社会福祉学部社会福祉学科 2 年　高野　祥平
活動先：NPO 法人　ぱお
クラス：野尻　紀恵　先生

1．SL を通しての自分の成長と気づき

私たちが SL を通して学んだこと、気づいたことを挙げたいと思う。

まず 1 つ目に学んだことは、自分たちの力で企画をやり切ることの大変さである。活動の企画や準備についてグループ内で意見を出し合うことから始めて、どのような目的でどんな企画をするのかということを繰り返し話し合った。実際に自ら企画をし、活動をしてみると計画通りにいかないことの方が多いと感じることもあり、そのことからグループ間もしくは子どもたちと共にひとつの企画をやり遂げることの大変さと同時に、達成感を学ぶことができた。

2 つ目は事前準備の大切さである。

私たちの活動ではツリーハウスを作るにあたって、次回の活動までに必要な道具などをホームセンターで買ってきたりすることが多かったけれど、グループ内での連絡不足で当日の活動で必要な道具がなく、その日の活動計画通りにいかないという場面があり、6 日間という短い活動期間では 1 つのミスが計画に大きな影響を与えてしまうことを痛感した。

3 つ目は子どもたちとの活動の中で学生が見守ることの大切さである。

ツリーハウス作りの作業をするにあたって、道具の扱い方といった安全面に気を付けてきた。その際に、ただ危ないからという理由で作業を子どもたちだけでさせなかったため、私たち自身が出過ぎてしまう場面が多いという指摘があった。私たち大人の判断で「子どもたちじゃ危ないからやってあげよう」と思って出過ぎてしまうことで、子どもたちの経験する機会を奪ってしまっているということを知った。

確かに大人がやってしまえば何の苦労もなく終わってしまうことでも、すべてをやってしまうのではなく、安全面を確保した上で大人が見守り、時にはサポートすることが大切であるということを学んだ。大人が見守ることで子どもたちも心理的に安心して作業に取り組めるからである。

4 つ目に知多半島の NPO 法人同士の連携についてである。

知多半島には多くの NPO 法人が存在するが、例えば活動の分野が違う NPO であったとしても共に助け合って活動している。時には他の NPO の活動の手伝いに行くこともあり、道具の貸し出しも行っていて、お互いがお互いを補い合いながら活動している。連携することにより、本来の活動の分野ではない活動に触れることで視野が広がり、活動の分野を増やすきっかけになっている。また、手伝ってもらう側と手伝う側での相乗効果が望めることも NPO の魅力だと感じた。

2．活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私たちが、ぱおでの活動を通して見えてきたフリースクールの地域活動や社会活動の課題について挙げたいと思う。

まず、1 つ目は利用者の確保についてである。

不登校児をフリースクール側から探し出すことは困難だからである。なぜなら、公的機関からフリースクールの紹介を受けるわけではないので、個人が見つけ出さない限り支援することが難しいというのが現状である。つまり、この問題を解決するためにも公的機関からも積極的に不登校児へのフリースクールの紹介に取り組んでいくべきだと感じ、フリースクールと公的機関の連携がより重要となってくるのである。

2 つ目はフリースクールから学校復帰する際に生じる学力の差である。

フリースクールとは不登校児の居場所であり、自由な空間である。つまり学校のように縛られることはなく、個人のペースで学習を進めることができ、学習だけでなくゲーム機や漫画なども設けており、好きな時に好きなことに取り組むことができるのである。しかし、学習面では個人の学習意欲が反映されるため、学習の進行に大きな差ができてしまうのではと危惧している。学校での学習がすべてとは思わないけれど、学力の差が生じることで、さらに学校に行くことを恐れたりする原因になってしまうと思った。その対処法として学習ボランティアの依頼が必要になってくると感じた。

3 つ目はフリースクールの経営についてである。

NPO のフリースクールの主な収入は利用者の月謝に委ねられるが、ほとんど満足のいくものではなく、なおかつ 1 つ目でも挙げたが、利用者の確保も不十分なため、経営に苦労している現状である。日本では全ての者に教育を受ける権利があるのだから、学校だけではなく、フリースクールにも国から資金面で支援が必要であると思う。

ツリーハウス作りの作業風景